



落穂集

後篇
下



門 4 普 4
775
118

廣德集

一 家光公御不例之事

一 由井正雪次第

一 大丰次第 明曆四年二月
十八日十九日西曆 附云 緣寺御建之事

一 保科肥後守由緒之事

一 大丰之衣皮羽織之事 附 伽羅油并舞之事

一 江戸大繪圖出立之事

一 家光公御他界之事 御光中 方之事

一 東照宮御年若之事 御戰場之事



何事も三途へ移しく同幅ち後自角で病とて死に
申り置る又屋縁の上より井俵掃取移しく大層不
快なりゆきゆりは身是ハいなり厚敷に候しく
申しておさくさくお同幅ち後より三途に家申
たよ久保町のもんと退きん置るなりりの沙門の
弗飛し自たに合約かき老に候かと移しく小人
仲方と取人外も七八人程い有る同幅ち候も
病ち治致りぬ九別家ちく弗飛し内と治せ置る
とせり

一河叔豊後ち後用人ち松林番と申老そ白印極白
沙門へあり昌院控室の候ち申程いあ沙城也申
たし有るゆ移七ハ麻生申屋敷と申老そ家見た

道と此村の移しくあを後ちり付年とて申中
と侍た退く治致りなりハ高沙門の内ハ沙人為
と申と申た私老と治立人別お治り申一戸
の寄り候申の候移り候と申沙門に介と揚人
出像控室の候ち申中へ申候月分人改と候し
あしと申と申ハ以後沙者申と治紙を後ち候
杉太ハ大分治せり候申私候と申屋敷にあり候と
以後老後ち家見と申申申申老有る人毛
申候と申申申申申申申申申申申申申申申
と申

一十九日と候方申り西ノ沙丸と移しく保科 肥後守辰
杉平伊豆守辰 申中ハ今ハ大申と申申家方申

沖基様へ唯大いなる御礼申上り候間此御返書申上り候間
申上り候間此御返書申上り候間此御返書申上り候間
申上り候間此御返書申上り候間此御返書申上り候間
申上り候間此御返書申上り候間此御返書申上り候間
申上り候間此御返書申上り候間此御返書申上り候間
申上り候間此御返書申上り候間此御返書申上り候間
申上り候間此御返書申上り候間此御返書申上り候間
申上り候間此御返書申上り候間此御返書申上り候間
申上り候間此御返書申上り候間此御返書申上り候間
申上り候間此御返書申上り候間此御返書申上り候間

有くたすハ沖基様へ御返書申上り候間此御返書申上り候間
申上り候間此御返書申上り候間此御返書申上り候間
申上り候間此御返書申上り候間此御返書申上り候間
申上り候間此御返書申上り候間此御返書申上り候間
申上り候間此御返書申上り候間此御返書申上り候間
申上り候間此御返書申上り候間此御返書申上り候間
申上り候間此御返書申上り候間此御返書申上り候間
申上り候間此御返書申上り候間此御返書申上り候間
申上り候間此御返書申上り候間此御返書申上り候間
申上り候間此御返書申上り候間此御返書申上り候間

沖基様へ御返書申上り候間
此御返書申上り候間

志なき中斗とてはさき^{光緒}若きころの成心のゆ
らきとありゆゆも却て海のつらとて天をさしつらと
有るに群給まよふ不長生拂も驚くよ成成とを
以て元来子為く生ま有るふらとて海に及
中無仕健実病よ生れ有終ふ人たりた嬉雨
云よ長しとてふ有のらぬ病ありともなとて経
命よあぐらひつひ不中いなきとて女樂の終白
波しとてと孔も悔ありひらとていふおふす
若年とて流とて大各方とて更方とて名ふ入と何の
波の音波とて八年前の女中とてとてつらと
生れ付とて宜若とて女中たると八波をくく世入と
友同遊りといふ御細給とて不中事にはさるるあは

小有るにあら何れが流りせら幸とて大各方と
ゆ息女と婚れと長供財とて成成と女中と内と
件の子と味縁ひと杯の影と拍と華ありと伝い
たも也塔伝お相おむももるんはと年安女中た
たも也一件と相おむと初産具と産して年
つらと切と海と流と海と色と海とさる感
を無とて思ふと成りふと事おこりと果とあり
斗と好とてととと見とてととありと中とよ
くてもとと娘と合とととととと女中分別とと物
とと必免とと切とととととととととととととと
ととととととととととととととととととととと
とととととととととととととととととととととと

乃公中事取事之是小有之

江戸大橋出馬事

一問の今時江戸大橋出馬事として世に之を多し
江戸大橋出馬事
昔は在り大橋出馬事
水戸八幡の妙事
在り玩味中代四年大橋
事以後井伊掃部及保科肥後与成と初て之
介老中方面打寄江戸南北大橋出馬事
而付事
と成中代出馬事
大橋出馬事
中用總く一書手透す
家取友町方在り

中代有之は江戸大橋出馬事
御殿の私儀江戸代末
在り江戸代末
人々
在り江戸代末
新方
主入
此若
此在

敵多しの徳有く秀吉にありて 於現様と病氣とく此後
より親あはれなる病氣候様乃徳之元来元公秀頼様御年
乃徳也と有くこゝに意成候も共人せりの徳も那
斗ふと有るは道とくは大切の事とていふに候はれ
り此勢の徳を其許へ譲りて戸を以て 於現様
あつと思ふは許ありは此言のゆゑとていふに候はれ
おしり 於現様ありては此勢とていふに候はれ
大納言判事とて考れ去り候に候はれとていふに候はれ
ゆゑとていふに候はれとていふに候はれとていふに候はれ
中納言考れあり候に候はれとていふに候はれとていふに候はれ
中納言考れあり候に候はれとていふに候はれとていふに候はれ
及是とていふに候はれとていふに候はれとていふに候はれ

日本軍中の軍勢東西小つとて浪別 関ヶ原表あり候に
天下分目より大合戦あり候に 沙苗家以徳代り人持
衣の候に 秀忠様あり候に 本居路とていふに候はれ
関ヶ原合戦の間に在りて 本居路とていふに候はれ
主川あり候とていふに候はれとていふに候はれとていふに候はれ
これとていふに候はれとていふに候はれとていふに候はれ
秀忠様あり候に 徳川忠興如蒙助の池田輝政
徳將正則 浪野吉長及豊高虎とていふに候はれとていふに候はれ
如上方に候とていふに候はれとていふに候はれとていふに候はれ
此方あり候とていふに候はれとていふに候はれとていふに候はれ
手足元氣なりとていふに候はれとていふに候はれとていふに候はれ
此方あり候とていふに候はれとていふに候はれとていふに候はれ

其者夜活亦乃書面に於て
推現孫沙在世の節の
以爲ありては我々の取付（たりの事）もたはりて
有指書記を並に書取いんとせし八月お満ち夜活の
事（た）と唱ふ人の取付と知りて人辨ふ故の
ト付らる
推現孫の沙を云ふ言のりは或と孫と取
及する若も言てては成ぬくも也れは 約念の
ゆりたるなりては本（ま）事毎のりて候也 石中出
てては初に書け沙の徳も言ひし程にふ 山人孫と
東懸ち推現孫の言致すふよに於ては上旨の法非是に
ゆりハ沙孫はた少も出たりては孫は是も言はれはは格
の演ら致も今内り世信は信仰とすりては一もきく出
西天坐す佛の中より説き業師地有るも 信心深し或ハ

お綱と代り法非是と神や柄のひ宗教はり
是懸言孫の沙孫をトてはハ此懸知り方のふりて
より外も一戸は云く右 推現孫のりの沙血脈は法非
西天の沙家門方よりは此事も中とては言はれは印は書
代節目の西懸卒大石小名と知てては印は向はる衣取
たりた事長お年庚申は此礼は後百十年とあるは
沙高家代りの沙懸は依りて候もは後もおま家
門懸業や者も唯ち方お候もゆりてはとて有る方とよく
よく思意ありては是備小 是懸言孫の沙神徳深
沙懸ゆりては有るはハの言ありては常の信ありては
深義運もては叶ては中事お候もは自介くは力
乃らも放りては及中お候も一人の中も是切の病

十時天保^又庚午^{庚午}其有月十日以某氏年書寫之
年書間誤脫多他日以善年考校之可也

中村萬喜直道

